

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年8月10日
【四半期会計期間】	第97期第2四半期(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)
【会社名】	昭光通商株式会社
【英訳名】	SHOKO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 宮 崎 孝
【本店の所在の場所】	東京都港区芝公園二丁目4番1号
【電話番号】	03(3459)5111(大代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 渡 辺 正 俊
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝公園二丁目4番1号
【電話番号】	03(3459)5051
【事務連絡者氏名】	経理部長 渡 辺 正 俊
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第96期 第2四半期連結 累計期間	第97期 第2四半期連結 累計期間	第96期
会計期間	自平成27年 1月1日 至平成27年 6月30日	自平成28年 1月1日 至平成28年 6月30日	自平成27年 1月1日 至平成27年 12月31日
売上高 (百万円)	71,842	62,919	136,182
経常利益 (百万円)	712	913	780
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 (百万円)	11,841	892	12,570
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	12,554	506	13,307
純資産額 (百万円)	5,234	4,997	4,483
総資産額 (百万円)	64,033	58,007	62,949
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額 (円)	108.20	8.16	114.86
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	7.9	8.2	6.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	8,221	2,647	1,021
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,867	423	718
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	6,528	1,772	1,509
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	4,420	4,810	5,382

回次	第96期 第2四半期連結 会計期間	第97期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成27年 4月1日 至平成27年 6月30日	自平成28年 4月1日 至平成28年 6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	8.82	5.22

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期純利益又は四半期(当期)純損失」を「親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失」としております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、第1四半期連結会計期間より、Shoko Tsusho (Thailand) Co., Ltd.は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績等の概要

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国・新興国経済の低迷等の影響により、年初より個人消費の回復に遅れが見られた上、当四半期終盤にかけては、6月末に行われた英国国民投票により、英国のEUからの離脱が決定した結果、国際金融市場が混乱し、株安・円高が進行する等、景気の先行きに対する不透明感が更に強まる状況で推移しました。

このような状況の中、当社グループでは本年度より5ヶ年の新たな中期経営計画をスタートさせました。本計画では、「リスク予測機能の強化」「成長分野への投資、不採算事業からの撤退」「主要顧客への深耕、新規顧客開拓、高収益事業への進出」「エンドユーザー密着型ビジネスモデルの構築」「東南アジア地域を重点エリアとした事業展開」の5つの全体戦略を掲げ、施策の実行に着手しております。

当第2四半期連結累計期間の当事業におきましては、原油やアルミニウム地金の価格低下に伴い、主要な取扱商品価格が前期と比較して概ね下落傾向となり、また、前期に鉄鋼関連取引を中止した影響等で、売上高が減少いたしました。また、主要商材の業績が総じて底堅く推移したことに加え、前年度に貸倒引当金を計上している売掛債権の一部回収により、増益となりました。また、賃貸用不動産を売却しその売却益を特別利益として計上いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は629億19百万円（前年同期比12.4%減）、営業利益は10億68百万円（前年同期比36.8%増）、経常利益は9億13百万円（前年同期比28.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億92百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失118億41百万円）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

（化学品）

化学品部門につきましては、化学品関連は、中国・アジア経済の低迷の影響から主要商材の価格が下落した影響が大きく、減収となりました。

科学システム関連は、主力のショウデックス®カラム（高速液体クロマトグラフィ用カラム）販売で一部OEM品が低調でしたが、計測機器が海外向けを中心に堅調に推移し、増収となりました。

食品関連は、グリシン・アラニン等の食品添加物やゼラチン等が好調に推移し、増収となりました。

肥料農材関連は、肥料価格の値下げ、および農業資材関連の東北地方を主とした需要減の影響等により、減収となりました。

以上の結果、売上高は215億14百万円（前年同期比5.3%減）、営業利益は3億17百万円（前年同期比9.1%減）となりました。

（合成樹脂）

合成樹脂部門につきましては、国内取引では、ナフサ価格下落により原料価格が低下した影響で、減収となりました。

また、貿易取引も、前年同期円安で好調だった台湾・韓国向けの光学用途原料の販売が減少し、減収となりました。

以上の結果、売上高は164億93百万円（前年同期比14.4%減）、営業利益は25百万円（前年同期は営業損失24百万円）となりました。

（金属）

金属部門につきましては、軽金属関連は、電解箔が好調に推移しましたが、アルミニウム地金相場の低迷等によりアルミ合金やアルミスクラップの販売が減少し、減収となりました。

無機材料関連は、アルミナや水酸化アルミニウムの販売が低調に推移し、また、前期好調の耐火材も円高による価格下落が影響し、減収となりました。

鉄鉱石は、昨年4月に販売を取り止め、減収となりましたが、前年度に貸倒引当金を計上している売掛債権の一部回収により、増益となりました。

以上の結果、売上高は174億53百万円（前年同期比16.6%減）、営業利益は6億33百万円（前年同期比134.5%増）となりました。

(生活環境)

生活環境部門につきましては、住宅建材関連は、前期に実現した東日本大震災の復興関連商材の販売が今期はなく、減収となりました。

不動産関連は、賃貸用不動産（アクティス上目黒ビル）の売却等により賃料収入が減少し、また仲介・請負案件に大きな成約なく、減収となりました。

エレクトロニクス関連は、LEDのアジア市場低迷の影響、およびクリーンルームの大型案件が、当期は未受注であったため、減収となりました。

以上の結果、売上高は55億80百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益は57百万円（前年同期比41.4%減）となりました。

(海外その他)

海外その他部門につきましては、昭光通商（上海）有限公司は、鉄鋼関連事業からの撤退に伴い事業を縮小した影響で、減収となりました。

また、今期より、Shoko Tsusho (Thailand) Co.,Ltd.が新たに連結子会社となり、増収となりました。

以上の結果、売上高は18億78百万円（前年同期比42.9%減）、営業利益は39百万円（前年同期比56.2%減）となりました。

(2) 財政状態

当第2四半期連結会計期間末における資産は、580億7百万円（前連結会計年度末比7.9%減）となりました。主な要因は、「受取手形及び売掛金」の減少であります。

負債は、530億9百万円（前連結会計年度末比9.3%減）となりました。主な要因は、「支払手形及び買掛金」の減少であります。

純資産は、49億97百万円（前連結会計年度末比11.5%増）となりました。主な要因は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」の計上による「利益剰余金」の増加であります。

この結果、自己資本比率は1.4ポイント上昇して8.2%になりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて5億71百万円減少し、48億10百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少等により26億47百万円の支出（前年同期比55億73百万円の支出減少）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、無形固定資産の売却による収入等により4億23百万円の収入（前年同期比14億44百万円の収入減少）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、コマーシャル・ペーパーの発行による収入等により17億72百万円の収入（前年同期比47億56百万円の収入減少）となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

金額が僅少のため、記載を省略しております。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	112,714,687	112,714,687	東京証券取引所 市場第一部	・権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株式 ・単元株式数 1,000株
計	112,714,687	112,714,687	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日	-	112,714,687	-	8,021	-	0

(6) 【大株主の状況】

平成28年 6 月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
昭和電工株式会社	東京都港区芝大門一丁目13番 9 号	47,901	42.50
昭光通商従業員持株会	東京都港区芝公園二丁目 4 番 1 号	1,158	1.03
岩井コスモ証券株式会社	大阪府大阪市中央区今橋一丁目 8 番12号	1,098	0.97
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目 8 番11号	1,058	0.94
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	東京都新宿区西新宿一丁目26番 1 号	1,018	0.90
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番 3 号	956	0.85
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目 5 番 5 号	950	0.84
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口 1)	東京都中央区晴海一丁目 8 番11号	753	0.67
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口 5)	東京都中央区晴海一丁目 8 番11号	751	0.67
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口 2)	東京都中央区晴海一丁目 8 番11号	733	0.65
計	-	56,377	50.02

(注) 1 . 当社は、自己株式を3,284千株保有しておりますが、上記大株主の状況からは除外しております。

2 . 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) 、日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) 、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口 1) 、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口 5) 、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口 2) の所有株式数は、全て信託業務に係るものであります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年 6 月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,284,000	-	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株式
完全議決権株式 (その他)	普通株式 108,813,000	108,813	同上
単元未満株式	普通株式 617,687	-	同上
発行済株式総数	112,714,687	-	-
総株主の議決権	-	108,813	-

- (注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式573株が含まれております。
2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,000株含まれております。
3 「完全議決権株式(その他)」欄及び「総株主の議決権」欄の議決権の数には、いずれも証券保管振替機構名義の株式に係る議決権が4個含まれております。

【自己株式等】

平成28年 6 月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) 昭光通商株式会社	東京都港区芝公園 二丁目 4 番 1 号	3,284,000	-	3,284,000	2.91
計	-	3,284,000	-	3,284,000	2.91

- (注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権1個)あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含まれております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第2四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年1月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,391	5,083
受取手形及び売掛金	2,334,118	2,30,857
電子記録債権	2,3937	2,1,205
商品及び製品	3,770	3,564
販売用不動産	12	12
仕掛品	307	253
仕掛販売用不動産	2,196	2,686
原材料及び貯蔵品	487	469
その他	2,2,329	2,1,561
貸倒引当金	533	33
流動資産合計	49,018	45,661
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,628	1,471
機械装置及び運搬具(純額)	628	602
土地	4,711	4,711
その他(純額)	526	521
有形固定資産合計	7,494	7,307
無形固定資産		
のれん	251	207
その他	323	163
無形固定資産合計	574	371
投資その他の資産		
投資有価証券	4,944	3,816
繰延税金資産	50	6
長期未収入金	14,330	12,153
その他	823	810
貸倒引当金	14,287	12,118
投資その他の資産合計	5,862	4,667
固定資産合計	13,931	12,346
資産合計	62,949	58,007

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 27,222	22,764
電子記録債務	3 2,781	4 1,952
短期借入金	5,040	5,830
コマーシャル・ペーパー	-	1,000
1年内返済予定の長期借入金	1,611	4 1,611
未払法人税等	751	144
賞与引当金	147	186
その他	3,409	2,151
流動負債合計	40,963	35,641
固定負債		
長期借入金	15,033	15,027
退職給付に係る負債	1,066	1,047
その他	1,402	1,293
固定負債合計	17,502	17,368
負債合計	58,466	53,009
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,021	8,021
資本剰余金	0	0
利益剰余金	4,968	4,123
自己株式	479	479
株主資本合計	2,574	3,419
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4	288
繰延ヘッジ損益	0	20
土地再評価差額金	883	904
為替換算調整勘定	940	857
退職給付に係る調整累計額	143	125
その他の包括利益累計額合計	1,684	1,326
非支配株主持分	225	250
純資産合計	4,483	4,997
負債純資産合計	62,949	58,007

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 1 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)
売上高	71,842	62,919
売上原価	66,999	58,316
売上総利益	4,842	4,602
販売費及び一般管理費	4,061	3,534
営業利益	781	1,068
営業外収益		
受取利息	27	5
受取配当金	51	34
為替差益	35	-
持分法による投資利益	11	20
雑収入	20	20
営業外収益合計	147	81
営業外費用		
支払利息	178	73
為替差損	-	149
雑損失	38	13
営業外費用合計	216	236
経常利益	712	913
特別利益		
投資有価証券売却益	1,649	-
固定資産売却益	-	313
特別利益合計	1,649	313
特別損失		
貸倒引当金繰入額	12,889	-
投資有価証券評価損	41	20
固定資産除却損	0	0
特別調査費用	83	-
その他	29	0
特別損失合計	13,043	21
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失 ()	10,682	1,206
法人税、住民税及び事業税	929	147
法人税等調整額	204	133
法人税等合計	1,134	280
四半期純利益又は四半期純損失 ()	11,816	925
非支配株主に帰属する四半期純利益	24	33
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 ()	11,841	892

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	11,816	925
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	598	300
繰延ヘッジ損益	14	20
土地再評価差額金	43	21
為替換算調整勘定	101	137
退職給付に係る調整額	66	17
その他の包括利益合計	737	419
四半期包括利益	12,554	506
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,579	480
非支配株主に係る四半期包括利益	25	25

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 1 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失 ()	10,682	1,206
減価償却費	133	132
のれん償却額	46	43
退職給付に係る負債の増減額 (は減少)	4	18
貸倒引当金の増減額 (は減少)	12,980	1,254
受取利息及び受取配当金	79	40
支払利息	178	73
投資有価証券売却損益 (は益)	1,648	-
売上債権の増減額 (は増加)	14,113	3,281
たな卸資産の増減額 (は増加)	382	103
仕入債務の増減額 (は減少)	8,224	5,323
預り保証金の増減額 (は減少)	17	17
長期未収入金の増減額 (は増加)	11,715	897
その他	3,054	979
小計	7,581	1,895
利息及び配当金の受取額	84	43
利息の支払額	110	64
法人税等の支払額	613	731
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,221	2,647
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	78
有形固定資産の取得による支出	61	26
有形固定資産の売却による収入	-	255
無形固定資産の売却による収入	-	322
投資有価証券の取得による支出	761	2
投資有価証券の売却による収入	2,730	-
貸付けによる支出	30	27
貸付金の回収による収入	0	0
その他	10	19
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,867	423
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (は減少)	1,676	784
長期借入れによる収入	14,000	-
長期借入金の返済による支出	405	5
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (は減少)	5,000	1,000
自己株式の売却による収入	0	0
自己株式の取得による支出	1	0
リース債務の返済による支出	11	6
配当金の支払額	273	-
非支配株主への配当金の支払額	103	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,528	1,772
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	221
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	192	673
現金及び現金同等物の期首残高	4,228	5,382
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	102
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,420	4,810

【注記事項】

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

（１）連結の範囲の重要な変更

第１四半期連結会計期間より、Shoko Tsusho（Thailand）Co.,Ltd.は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

（２）持分法適用の範囲の重要な変更

第１四半期連結会計期間より、昭光ファームネット株式会社は重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

（会計方針の変更）

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第１四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第１四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第２四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2 項（４）、連結会計基準第44 - 5 項（４）及び事業分離等会計基準第57 - 4 項（４）に定める経過的な取扱いに従っており、第１四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

（追加情報）

（中国関連取引について）

当社の連結子会社である昭光通商（上海）有限公司は、約28百万元の仕入増値税専用発票が未回収となっているため、当該事実について中国税務当局に通報を行いました。その後、平成28年3月に一部の仕入先より平成26年12月期に行った一部の取引について出荷の事実はない旨の通知を受けております。当社で調査を実施いたしましたが、通知にあった事実は確認されておりません。

しかし、今後の中国税務当局による税務調査の進捗により、当社グループの損益等の状況に影響を及ぼす可能性があります。

（連結納税制度の適用）

当社及び一部の連結子会社は、第１四半期連結会計期間より連結納税制度を適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

営業取引等に対し保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成28年 6 月30日)
昭光プラスチック製品(株)	286百万円	200百万円
昭光ファームネット(株)	12	23
(有)サン・クローバー	-	4
Shoko Tsusho (Thailand) Co.,Ltd	21	-
計	320	228

2 受取手形等割引高及び裏書譲渡高並びに債権の流動化

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成28年 6 月30日)
受取手形及び電子記録債権割引高	18百万円	8百万円
受取手形裏書譲渡高	15	9
受取手形及び売掛金の流動化に伴う譲渡高	5,821	4,253

なお、資金化していない部分(前連結会計年度1,059百万円、当第 2 四半期連結会計期間802百万円)は流動資産の「その他」に計上しております。

3 四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権債務の会計処理

四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権債務の会計処理は、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、前連結会計年度末日は銀行休業日のため、次のとおり期末日満期手形及び電子記録債権債務が、前連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成28年 6 月30日)
受取手形	558百万円	- 百万円
電子記録債権	34	-
支払手形	482	-
電子記録債務	610	-

4 財務制限条項

当社は、当第 2 四半期連結会計期間末における 1 年内返済予定の長期借入金のうち1,600百万円及び電子記録債務については、純資産(平成27年 5 月26日付で締結された金銭消費貸借契約(劣後特約付)の借入額は純資産に含まれるものとみなす。)及び経常利益に係る財務制限条項が付されております。

5 当社は、親会社である昭和電工株式会社と融資枠設定契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成28年 6 月30日)
融資枠の金額	10,000百万円	10,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	10,000	10,000

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 1 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)
貸倒引当金繰入額	18百万円	377百万円
給与手当	1,153	1,098
賞与引当金繰入額	292	299
退職給付費用	112	98

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 1 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)
現金及び預金勘定	4,429百万円	5,083百万円
預入期間が 3 ヶ月を超える定期預金	9	272
現金及び現金同等物	4,420	4,810

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 6 月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式 の種類	配当金 の総額 (百万円)	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年 3 月27日 定時株主総会	普通株式	273	2.5	平成26年12月31日	平成27年 3 月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計
期間末後となるもの

該当事項はありません。

当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 1 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計
期間末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	化学品	合成樹脂	金属	生活環境	海外 その他	計		
売上高								
外部顧客への売上高	22,710	19,263	20,935	5,640	3,292	71,842	-	71,842
セグメント間の 内部売上高又は振替高	390	53	550	49	764	1,809	1,809	-
計	23,101	19,316	21,486	5,690	4,057	73,651	1,809	71,842
セグメント利益 又は損失() (営業利益)	348	24	270	97	90	781	0	781

(注) セグメント利益の調整額 0百万円は、主にセグメント間取引消去であります。

「金属」のセグメント利益は270百万円となっておりますが、特別損失に計上した貸倒引当金繰入額49億19百万円は含まれておりません。同様に、「海外その他」のセグメント利益は90百万円となっておりますが、特別損失に計上した貸倒引当金繰入額79億69百万円は含まれておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	化学品	合成樹脂	金属	生活環境	海外 その他	計		
売上高								
外部顧客への売上高	21,514	16,493	17,453	5,580	1,878	62,919	-	62,919
セグメント間の 内部売上高又は振替高	30	17	39	18	549	655	655	-
計	21,544	16,510	17,493	5,598	2,427	63,574	655	62,919
セグメント利益 (営業利益)	317	25	633	57	39	1,072	4	1,068

(注) セグメント利益の調整額 4百万円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 1 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額 又は 1 株当たり四半期純損失金額 ()	108円20銭	8円16銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親 会社株主に帰属する四半期純損失金額 () (百万円)	11,841	892
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損 失金額 () (百万円)	11,841	892
普通株式の期中平均株式数 (株)	109,439,340	109,430,539

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8月10日

昭光通商株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 園田 博之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秋山 俊夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 切替 丈晴 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている昭光通商株式会社の平成28年1月1日から平成28年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年1月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、昭光通商株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- （注） 1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。